島の病院おおたに

オーシャンビューの個室で患者さんの安心を支えるベッドサイド水洗トイレ。

病棟の個室には、手すりの付いたベッドサイド水洗トイレを採用。自由に動かせるため、右麻痺にも左麻痺にも対応できる。

美しい瀬戸内の海が広がる広島県南西部に位置する江田島。この島において「安心して喜ばれる医療」を提供してきたのが、大谷リハビリテーション病院でした。2017年3月に、島の中心となる海岸沿いに移転オープンし、新しく名付けられた病院の名前は、島の病院おおたに。「病院らしくない病院」を目指した、まるでホテルのように清潔で快適な、デザインにも優れた環境が創造されました。素晴らしいロケーションのもと、地域と連携した信頼される島の医療が行われています。

瀬戸内の海を望む5階建ての建物の外壁には、島のオリーブやみかんの色をあしらっている。

病院はトイレに始まり、トイレに終わる。排泄を大切にしながら、ニオイの問題も解決。

新しい病院のコンセプトは、0歳から100歳を超える高齢者まで、幅広い年齢層を診るプチ総合病院です。特に「病院はトイレに始まり、トイレに終わる」という想いのもと、大切な排泄行為を支えるトイレに配慮。病棟の個室には通常のトイレのほか、患者さんの必要に応じて設置や移動のできるベッドサイド水洗トイレを導入しました。トイレのない個室と2床室に配管を設置し、現在は15台、すべてが使用されています。水洗トイレであるため、気になるニオイの問題も解決。スタッフの作業負荷も軽減できました。

ホテルライクなイメージのある1Fの外来窓口。

島の病院おおたに

- 竣工年月／2017年2月
- 所在地／広島県江田島市能美町中町4711
- 施主／医療法人社団大谷会
- 設計／株式会社ゆう建築設計
- 延床面積／9,198.40m²
- 病床数／96床

歩行訓練のできる屋上庭園には玉砂利や芝生も。

幼児用の便器を設けた小児科のトイレ。

病院の4Fオープンテラスからは、風光明媚な瀬戸内の海を眺められる。

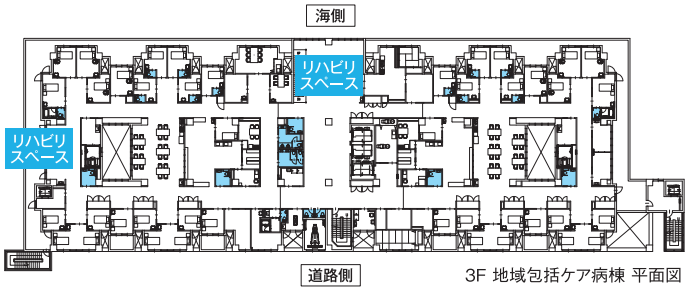
海に寄り添いながら、この島で元気になる環境が整えられている。

できるだけ自力で排泄が行えるように患者さんの状態に合わせて使えるトイレを用意。

リハビリテーションを重視しているのは、病院の規模に対してリハビリスタッフの数が多いことにも表れています。また、さまざまな場所でリハビリができるように、1Fには外来専用の大きなリハビリ室、2・3Fには病棟専用のリハビリ室を計4ヵ所、5F屋上にはリハビリ専用の歩行訓練スペース、さらに1～3Fの各所に言語療法室を設けています。こうした環境が、患者さん一人ひとりに合わせたリハビリメニューをサポートしています。

また、日々の排泄行為自体がリハビリにつながるという考えのもと、できるだけ自力で排泄が行えるように、患者さんの状態に合わせて使えるトイレを、数も種類も豊富に用意。病棟階だけでも4種類のトイレが存在しています。中央部分の集合トイレ、分散配置された車いすトイレ、個室の半分に設置された個室トイレ、そして個室トイレのない部屋に接続できるベッドサイド水洗トイレです。入院患者さんは状態の変化によって使用するトイレを変え、その時の自分に無理のない排泄を行うことができます。

そして新しい病院のこだわりは、シックで落ち着いた色を多く使うなど、そのデザインにもあります。デザインコンセプトは、1Fはホテルライクで、4Fはオーシャンビューを眺めるリゾートホテル。今までこの島になかった、島の人たちが訪れたくなるような空間づくりを行いました。そして2・3Fの病棟は自宅をコンセプトに、快適なプライベート空間を創り出しています。



3F 地域包括ケア病棟 平面図

1Fの外来向けのリハビリ室。以前の病院では外来患者と入院患者が1ヵ所のリハビリ室に集まっていたが、新病院では方針を転換。通院患者は1F外来リハビリ室、入院患者は各病棟階のリハビリ室で機能訓練を実施し、生活と訓練の境界を取り除けるように配慮した。

1Fの多機能トイレには、パウチ・しびん洗浄水栓付き背もたれ、おむつ交換台などが設置されている。

1Fのロビーは、瀬戸内の情景をイメージした、島と浜と波のモチーフによるデザイン。円形の折上げ天井は瀬戸内海に浮かぶ島を、曲線を合わせた形状のベンチは穏やかな波を表している。

自由診療室のトイレ。意匠性の高い便器や手洗器などを採用している。

和温療法室（医療用サウナ）も設けられ、更衣室内にはシャワールームを用意している。

1Fの検査用トイレには、尿流量測定装置を採用。はね上げ手すり、L型手すり、背もたれなどを設置している。

スタッフステーションの出入口に設けられた、水はねや床への飛散が少ないスタッフ用手洗器。

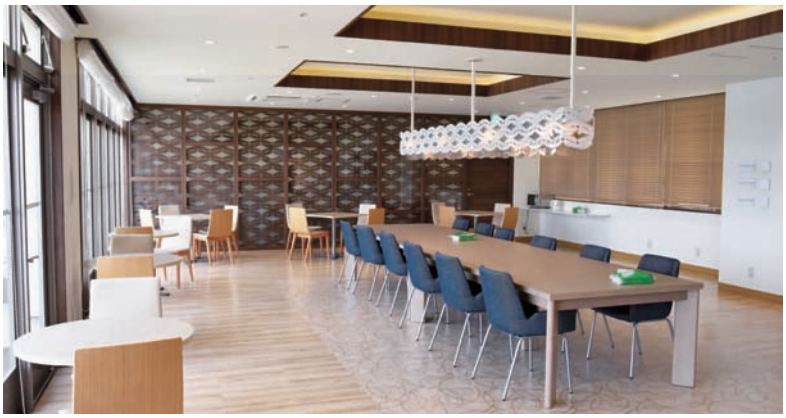
院長さんからの声

「島でねばる医療」を展開する中で、トイレの役割はとても大きなもの。スタッフの日常にも配慮しました。

院長
大谷まりさん

以前の病院は30数年経っており、とても古くなっていました。特にトイレは狭い、少ない、使いにくい、流れないという状況があり、また病棟ではポータブルトイレの使用頻度が多かったため、ニオイやメンテナンスが問題になっていました。そこで、トイレに関しては強いこだわりを持って設計していただきました。この度ベッドサイド水洗トイレを導入したことで、今までメンテナンスにかけていたスタッフの時間が有効に使えるようになり、ニオイの問題も解決し、清潔な環境が保てるようになりました。ちゃんとウォシュレット付きで、排泄後は水分を拭き取るだけなので、患者さんにも良いと感じます。

新しい病院は港が近くなり、広島市内から船で通っているスタッフもいます。常勤のドクターは以前の3名から8名に増えました。スタッフが使えるトイレの数を増やすなど、新病院ではスタッフの働く環境も大切にしています。以前は地下にあった食堂を眺めのよい上階のカフェテリアにしたのは、スタッフのためにも良かったですね。今後も地域包括ケアを進める中で、この島で粘り強く元気に暮らすことを江田島市が「島でねばる」と言っているように、私たちも「島でねばる医療」を展開したいと思います。



4Fのカフェテリアはスタッフをはじめ、誰でも利用できる。照明や壁、床は波をモチーフにしたデザインである。

カフェテリア入口に設けられ、気分をリフレッシュするデザイン性の高い洗面カウンター。

4Fの健診控室に設けられたトイレ。なお、当院では健診・人間ドックも充実させ、島に訪れる人の数を増やしたいと考えている。

座った姿勢でゆったりと使える、健診控室の洗面カウンター。

同じく健診控室内の浴室。リゾートホテルに滞在しているような気分で、リラックスしながら健診を受けられることも大きな魅力である。

事務部の方からの声

患者さんへのケアを手厚くできるトイレです。

事務長
横下努さん

事務部 次長
西本正子さん

コストよりも患者さんの利便性やケアにつながることを優先しました。ベッドサイド水洗トイレにして、便器を洗浄していた時間を患者さんのケアに使えますし、ADLが向上してトイレに行けるようになった患者さんもいます。

設計担当の方からの声

清潔で光あふれる、明るい環境が実現しました。

株式会社ゆう建築設計
チーフアーキテクト
玉井英登さん

病棟は住宅の雰囲気を持たせるという方針で計画しました。その結果、病室の構成は8割が個室となっています。また建物を凹凸形状とすることで、すべての病室のベッドに窓を設け、外の光を感じていただける設計としました。水まわりに関しては院長の強いご希望もあり、各種設備を手厚く配置しており、清潔感を非常に重視した建物となっています。